



学校だより

令和3年8月号

村上市立朝日みどり小学校

村上市中原2726

電話 72-6665 FAX 72-6958

★朝日みどり小学校のホームページ★ <http://midori-e.murakami.ed.jp> (随時更新中)

東京2020オリンピック選手の言葉や姿に学ぶ！ (楽しむ・感謝・絆)

校長 見原 恵

7月23日(金)の開会式から8月8日(日)の閉会式まで、どれだけの競技をテレビ観戦したでしょうか。どれだけの時間、テレビの前で祈りながら応援したでしょうか。とにかく、感動とともにあっという間に17日間の「東京2020オリンピック」が過ぎていったのではないのでしょうか。

皆さんは、1年の延期後に行われた、開催も危ぶまれたこの「東京2020オリンピック」からどんなことを学び、感じ、そして、考えたでしょうか。あまりにもたくさんありすぎて、語りきることはできませんが、私は、オリンピック選手の言葉や姿から「楽しむ」「感謝」「絆」の大切さを学んだ気がします。

「楽しむ」：水泳の大橋悠依選手は、「まだ夢みたいですけど、泳いでいて、**すごく楽しくて**、本当にそれが、自分が水泳をやっているすべてかなって。やってきたことは間違っ
てなかったし、**楽しい**レースができたと思います。」と語りました。また、スケートボードの開心那選手は、12歳という日本人最年少メダリストにもかかわらず、「プレッシャーは全然感じないので、緊張もせずに、**本当に楽しんで**いました。自分のカッコいい滑りをみんなに見せることができ、2位を取って本当にうれしいです」と堂々とインタビューに答えていました。やはり、練習は辛く、厳しかったと思いますが、その競技を“楽しむ”ことが結果にもつながると学びました。

「感謝」：レスリングの文田健一郎選手は、「まずは、大会の開催と運営に協力してくれた人と、テレビの前で応援してくれた人全員に、この場を借りて**感謝**したい。本当にありがとうございました。」と大会運営の裏方の人にも感謝の気持ちを伝えていました。また、ボクシングの田中亮明選手は、「最高ですね、気分は。1番頭に浮かんできたのは、**感謝の気持ち**。今回はいろんな人に応援してもらって、今日まで戦い切れたのは皆さんの応援のおかげだと思っているし、**感謝**しています。」と語りました。メダリストならず、インタビューを受けた選手の人のほとんどが、様々な人に**感謝の気持ち**を言葉で伝えていました。テレビを見ている私も、ジーンと心が温かくなりました。選手だから、メダリストだからではなく、人間は、「感謝」を忘れてはいけないと改めて考えさせられました。

「絆」：柔道の阿部詩選手は、「兄もしっかり優勝してきてくれたので、本当に家族一丸となって達成した金メダル。本当に柔道をやってきて良かったという気持ちがあふれ出てきました。」と、兄妹揃って同じ日に金メダリストになり、絆の強さを見せてくれました。また、水泳の瀬戸大也選手は、ずっとずっとライバルで競い合ってきた萩野公介選手と決勝の舞台で競えたことを、「公介と一緒にこの夢の舞台でまた一緒に泳ぐことができ、2人で戦えたことが、本当に幸せでした。一緒にここまで泳いできて、最後、東京オリンピックの舞台で泳ぐことができたので、メダルは取れなかったですけど、それ以上に幸せな時間を過ごせました。」とライバルとの絆の深さを語っていました。人は、1人では戦えません。個人競技でも、団体競技でも、相手がいるから戦えます。ライバルがいるから、頑張れます。応援してくれる人があるから、続けられます。

35日間の夏休みを終え、2学期がスタートしました。朝日みどり小学校も、「毎日学校に来るのが楽しい」「感謝の気持ちを伝える」「仲間との絆を深める」そんな2学期になるよう、職員一丸となって頑張ります。2学期も、ご支援・ご協力をお願い致します。